

きいてくらしゃい 昔話

—長岡民話の会—会報第5号 平成18年7月発行

田んぼを渡る風がいつもより少し涼しく感じる今日この頃、皆様お元気ですか？この夏は長岡民話の会の大会『長岡民話百物語』も開催され、いよいよ本格的活動開始！と張り切っていらっしゃる方も多いことでしょう。どんなお話を語ろうか、どんな風に語ろうかと今から練習に励んでいらっしゃるのでしょうか？ともあれ、百物語に向け、美味しいうなぎでも食べて元気に本番に望みましょうね。さて、お待たせいたしました！会報5号をお届けします。(千)



活動報告と活動予定：

- 4月29日(土) 第3回総会 阪之上コミュニティセンターにて
出席者 20名 欠席届 6名 欠席 6名
新役員選出・紹介(議事録通り)
- 4月30日(日) 長岡市100周年記念事業参加による民話百物語の実行委員会発足 (議事録通り)
- 6月24日(土) 高橋ハナさんの昔話を聞く会参加
参加者19名
- 8月26日(土) 27日(日) 28日(月)
長岡民話百物語(長岡市民センター)
- 9月24日(日) 出雲崎伝説を探る旅
- 10月28日(土) “きいてくらしゃい”語り尽くし越後の昔話
(アトリウム長岡)

例会予定日：…当番班 時間は水・土共に13:30~15:30

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ○ 7月22日(土) …1班 | ○ 8月 9日(水) …2班 |
| ○ 9月13日(水) …3班 | ○ 9月24日(日) …出雲崎行き |
| ○ 10月11日(水) …4班 | ○ 10月28日(日) …アトリウム長岡 |
| ○ 11月 8日(水) …1班 | ○ 11月25日(土) …2班 |
| ○ 12月13日(水) …3班 | ○ 12月23日(土) 祝日 休み |

※高橋実先生には今号は「昔話の森」をお休みして「百物語」について書いていただきました。さあ、私達の八月の「百物語」はどんな風になるのでしょうか。バケモノが出てくるとしたらどんなバケモノなのでしょうか？何やらワクワクします。



私の住む小国から『榎峠のおおかみ退治』という昔話本が出ている。その中に「はなしの話」という昔話が載っている。村の若い衆宿に、大勢人が集まっていて、ご馳走を食べたり、話をしたりして、楽しい時を過ごしていたときだった。ドカーンと大きな音がして、天井からでっかい笹が落ちてきた。そこにいた人たちは、何事が起こったかと集まってきてみたら、その笹の中に、うまそうな牡丹餅が一杯入っていて、みんなでそれを食べた。それが村中のうわさになり、その日にいなかった人も「おれたちもその牡丹餅を食いたい」と翌日集まってくる。そうすると、また大きな音がして、天井から笹が落ちてくる。「さあ、牡丹餅が落ちてきたぞ」と期待して、集まってくると、その笹の中には、きたない格好の婆さまが入っていて、「ねら、おら昨日ここにやった牡丹餅の銭を取りに来た」と云って、あははと笑う。その婆さまの口には歯が一本もなかったという話である。

この話は、私が高校時代に、小国沢という集落で採集した話だった。

その当時、この話を特別意識せずに、記録しただけだったが、その後、日本民話の会の人たちが小国に来て、小国の昔話の座談会をやり、東京から来た会員がこの話に興味を示した。いわれてみると、たしかにこのとぼけたような話は、注目されていい話といえる。人々は、牡丹餅を食われることを期待していたのに、それどころか逆にその前日の牡丹餅代金を請求されるのである。期待していた人の意表をつく結末で笑いを誘う。そこにとって付けたように「歯なし」のおばあさんが出てきて、笑い飛ばす。

いったいこれは、全国の昔話の中でどんな位置を占める話なのであろうか。わからなかったが、水沢謙一氏の『あったてんがの』長岡市史双書の最後に「百物語り」と題して、これに類似の話が載っていた。夜、村のお宮に子供達が集まってお明かし百本上げて、昔話の語りっこを続けていた。そのとき、風が吹いてゴーツという音がした。行ってみると、大きな櫃があって、黄な粉のついた牡丹餅がいっぱいこと入っていて、みんなが喜んでそれを食べた。その翌日もまた百物語をしようということで、集まっていると、昨晚と同じようにフワフワ風が吹いてきて、ドサンと音がする。また牡丹餅が落ちてきたかといってみると、茶釜にお湯が入っていて、傍につけもんの香々が入っていた。そして神様が言うことには「お前たち、たまに来いば牡丹餅もあるども、毎晩ではお茶と香々でがまんしてくれや」というのである。

同じく水沢謙一氏の『ばばさのトントンムカシ』にも波多野ヨスミさんの語る百物語りを載せている。

これは大晦日の晩に、お宮で夜ごもりして歳徳爺さまの来るのを待っていた。ローソクをつけて次から次へと百物語りをしていると、九十九話まで語ったところで、大きな音がして、皆は怖くて逃げる。勇気のある爺さまだけが残った。行ってみると、千両箱が落ちていた。その古い蓋が壊れて、あたりに小判が散らかっていた。これは、歳徳爺さまの授け物だったという。それから百物語りは九十九話まで語るものだと言われる。

なるほど、小国の昔話の「歯なしの話」は、百物語りの場面であったのかと納得した。

江戸時代万治二年『百物語』という書物が発刊された。江戸時代には、夏の夜に真っ暗闇の中でろうそくを灯し、怪談を次々と語り、ひとりが一話を語ると、ローソクを一本ずつ消してゆき、最後の百本目のローソクを消すと、化け物が出ると言われていたとか。だから、百物語は九十九話で止めておくものだと言われていた。この本には、しかし、そうした怪談話とは無縁で、古今の笑い話が上下二巻に書かれているとか。私はまだ見ていない。これは口承から筆記された昔話への転換を象徴しているのかもしれない。

化け物は怖いけれども見たい、聞きたい。小学校で昔話を語るときでも、しきりに怖い話を聞きたがる。だれもいない夜の学校の音楽室からピアノの音が聞こえてきたとか、トイレの中で人の手が出て来たなどと、学校の怪談といわれているものが語られているのもそのためだろう。



ちょっと一息

高橋 ハナさんにお会いして

加藤 勇次

先日、越路町東谷集落センターに私たちは寄って、主の来られるのを待っていた。少し暑い午後であったが、窓から入り来る風は田んぼの匂いを含む涼風であった。少しばかり室はざわざわしていたが主の姿が室に見えると、すっと静まりみんなの視線は主に注がれた。主の名前は高橋ハナさん。九十才を超えて腰は曲がっているが、しっかりとした足どりで入ってこられ、席にお座りになった。私は大きな期待感に包まれていた。

主の紹介があって、いよいよ昔語りが始まった。しっかりとした言葉と、豊かな表情をもって一時間半程語って下された。私は物語の世界を心ゆくまで楽しんだ。

高橋さんの昔語りは、力みなく、自然体で流れるようである。歩まれた長い人生と共に語られるものであるから、私のような若輩者からは、およびもつかないことかもしれない。

また、日頃耳にしなくなったアクセントや言葉も淀みなく、私は、なつかしくはるかな気分になっていた。

こうして予定の時間は“あっと”いう間に過ぎていった。高橋ハナさんを囲んで記念写真を撮り、お見送りをしながら、まだ、はるかな気分が私には続いているようであった。

二〇〇六年 六月



ちょっと一息



高橋ハナさんの昔話を聞く

金子 睦

六月二十四日に越路町に高橋ハナさんの昔話を聞きに行きました。高橋ハナさん（大正三年二月生まれ、九二才）は、高齢にも関わらずお元気で語りも生き生きとして、臨場感にあふれていました。語って頂いたのは、一. とっさとむじな 二. おしょうさんと三人の小僧 三. きつねにだまされたあに 四. さるのいきぎも 五. 猫のおんがえし 六. じさとおとんじょ 七. やぎになったぼんさん 八. ぼたとかえる

以上の他に、ハナさんが子供のころに聞いた「あんじゅとずしおう」の物語を特別に語っていただきました。

少し耳がご不自由な様子でしたが、本を読んで覚えたのではなく、母親や祖母に聞いて覚えたと言う。その記憶のよさにも驚きましたが、民話は耳から耳への伝承であると言うことを改めて感じました。



「語り婆さ、高橋ハナさん」の語りを聞いて

大貫もと

ハナさんは、開口一番「耳が遠くへ行ってしまって、いっこうに聞こえませんがのう」と自己紹介なさいました。なんと朗らかなお人だろうと思いました。耳は遠くともそのお声は艶もあり、張りもあり、次々と八つものお話を語って下さいました。

最後に何のお話が一番好きですか？という質問に、間髪入れず「安寿姫と厨子王丸です。子供の頃母親にこの話をしてとせがむとお前はこの話しをすると泣くからいやだいのおと言いながらも語ってくれたものでした。」とおっしゃいました。私達もハナさんにそれを語って下さいとアンコールしたところ、快く語って下さいました。

「安寿恋しやホホヤレホー、厨子王恋しやホホヤレホー・・・」と語りながら、なんとハナさんは泣いておられました。それは決して演技ではなく語りの世界にすっぽり入り、世の中の母親の悲しみを一身に背負って泣いておられる様にも思われました。

お連れ会いを比較的若い頃亡くされたと伺いました。これまでの長い人生、辛いことも沢山おありでしたでしょうに、語りの世界で泣き、現実の世界では朗らかに生きてこられた方なのでしょう。それがお顔に、立ち居振る舞いに、もちろん語りにも現れ、私の心を揺さ振りました。素晴らしい一時でした。

最後にハナさんの益々のご健康をお祈り致します。ありがとうございました。

